



## 人権だより

【問合せ】桂川町人権センター ☎65・1187



山路敦子 館長

### ■自分の子どもだったら…

1月号の人権だよりを読んだ職員から、『招かれなかったお誕生会』の詩を読んで、子どもをもつ親としてたまらんやった。自分の子どもだったらと思うと切なかつた」と感想がありました。“自分の子どもだったら”というこの思いが、まさに大切なことではないかと思えます。人権・同和問題を他人事として考えるか自分のこととして考えるかでは大きな違いがあります。人権だよりに掲載してよかったとうれしく思いました。

### ■自分の孫だったら何と声をかける？

桂川中学校1年生が人権についての聞き取り学習のため、人権センターに来ました。何と！中学生からの質問に、『招かれなかったお誕生会』の歌を聴いて、山路さんがこの招かれなかった孫のおばあちゃんだったら、孫に何と言葉をかけますか？」とありました。もちろん、招かれなかった女の子が自分の孫だつたらと思ひながら聴いたので、自分の思いを伝えました。



### ●おかしいことはおかしいと言えるようになりたい

私の話を聞いて、「以前は、何がおかしいのかわからなかったけど、今日の話を聞いて、私もおかしいことはおかしいと言えるようになりたいと思いました」と感想がありました。この感想を言ってくれた子は、今年の夏に豪雨災害があった被災地にボランティアに行ったそうです。たまたま行った場所で、ボランティアに来ていた他の人が「ここが同和地区と何で教えてくれなかったのか！」と係の人に言っている場面に出くわしたそうです。「その時は、言ってる内容がおかしいとはわからなかったけど、人権学習を通してあの時聞いた内容がおかしいことだったんだとわかりました」と話してくれました。このことは、人権学習で正しく学ばないと気づけなかったことではないかと痛感しました。

### ●見えないだけ？

「もう差別はなくなった」との声を耳にしますが、見えないだけで、私たちの心の中に潜んでいるのかもしれない。中学生の体験は、それを象徴した出来事だったのではないのでしょうか。子どもたちは、人権・同和問題を正しく学ぼうとしています。私たち大人も正しく学ばなければいけませんね。

また、この他にも「招かれなかったお誕生会」が縁で、「広報を読みました。あの詩を読んで涙が出ました。つらいですね。今でも話していると涙が出ます」と何人かの方に声をかけていただきました。この人権だよりに読んでいただいていると思うとうれしくなります。

人権・同和問題は、残念ながら一朝一夕に解決するものではありません。

しかし、中学生の真剣に学ぶ姿を目の当たりにして、人権・同和問題を正しく伝えることは、私たち大人の責任ではないかと思えます。そのためには平成30年度も、差別のない桂川町を目指し、町民の皆さまと一緒に人権・同和問題について考えていきたいと思ひます。

### ■啓発冊子「けいかん」は今月末にお届けです！

今年度最後の取り組みが、啓発冊子「けいかん」の発行です。今月末には、各家庭に配布しますので、どうぞご覧ください。

人権・同和問題地域懇談会のまとめも掲載しています。

